

事業概要：道の駅を核とした「生活インフラ再生」×「地域産業高度化」

申請者	愛媛県西予市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	84,162千円 (84,162千円)
事業分野	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野（大項目）	地場産業支援関連事業分野
目的・効果	人口減少下でも自走できる「小さな拠点」を構築し、地域内で稼ぎ、地域内で循環する経済モデルをつくる。 ・道の駅を中核拠点として、生活インフラの再生と地域産業の高度化を両輪で進める過疎・中山間地域の「奥伊予式自走モデル」を構築する。 ・道の駅の多機能拠点化と特産品産業の強化により、地域内の経済循環を再生し、人口減少と産業縮小の悪循環を断ち切る。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR8年度事業費	【事業概要】 ・人口約2,600人の西予市城川町では、民間事業者のみで生活インフラを維持することが極めて困難である。このため、道の駅の指定管理者である第3セクターが、過疎・中山間地域の活性化と交流の拠点化を目指し、道の駅及び特産品加工施設の改修を行う。 ・本事業では、生活基盤の弱体化と産業力の低下という二重の課題に対し、道の駅を核とした買い物・金融などの生活インフラの再生と、ゆず・くり等の地元特産品を軸とした地域産業の高度化を両輪で推進することで「道の駅×コンビニ×6次産業化」による奥伊予式自走モデルを構築する。 【事業効果イメージ】 【Input】 地域資源（栗・柚子・地元キーパーソン）・道の駅・民間企業↓ 【Process】 道の駅・加工場改修→拠点賑わい・冷凍物流→6次産業化特産品開発↓ 【Output】 買物客（販売額）増、特産品製造量増・販路拡大↓ 【Outcome】 生活の質・所得向上、地域内経済循環雇用創出						
	【主な経費】 ・【建築物工事】 本体施設改修 39,318千円 ※道の駅 付帯施設改修 11,787千円 ※特産品物流倉庫 関連施設改修 26,290千円 ※特産品加工場 ・【備品整備】 機材の導入 6,767千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	① 地域内事業者への経済還元額（生産者・事業者への支払総額）：+46,500千円 ② 加工場で製造する特産品の年間販売額の増加率累計：+123% ③ 地域生活サービス（行政窓口、ATM等）の提供件数：+7,200件 ④ 道の駅の年間延べ利用者数（レジ通過人数）：+270,745人 ⑤ 城川町における農業生産人口の減少率改善：+8% 500人を維持 ⑥ 城川町特産品「くり」の年間生産量：+3.5ト 98トを維持 ※年3%減少中					URL ※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.seiyo.ehime.jp/kakuka/seisaku_kikaku/seisakusuishin/tihousousei/15390.html